



課題と検討の方向性について(案)

諮問事項

(審議期間：令和5年8月から令和7年3月まで)

変化する社会情勢に適応し 特別区消防団の組織力を向上させ

住民の負託に応え続ける方策は いかにあるべきか

諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくなくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところである。

さらに、本年は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核である消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適用し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について諮問するものです。



課題と検討の方向性について(案)

課題 1 地域防災の要である消防団として、変化及び成長をしていくことが重要である。

検討事項① 入団し活動を継続したいと思える組織の活性化方策について、大田区の地域特性や消防団の現況を踏まえ検討

| | |
|--------|--|
| 検討の方向性 | 1 団活動によりやりがいを持てる方策 |
| | ・ やりがいを感じる活動とやりがいを持てる方策の検討 |
| | 2 資格取得講座の拡充等 |
| | ・ 既存講座の拡充や消防団活動において必要な資格等の検討 ・ 多様な職業からなる消防団の特性を活かした団員から団員への講話や研修の検討 |
| | 3 多様な主体との協働による地域密着型の各種講習や教養講座の検討 |
| | ・ 地域の企業や官公庁等と連携した講習や講座、ワークショップの発掘 |

検討事項② 最新の技術等を考慮した活動環境の改善方策について検討

| | |
|--------|---|
| 検討の方向性 | 1 災害への出場命令や、団員間の情報伝達のあり方 |
| | ・ MCA無線に代わる無線機への更新や無線関係機器の統合、配置などの検討 |
| | 2 消防団事務の効率化が可能なタブレットを活用したシステム |
| | ・ 現行整備されているタブレット端末の更新に合わせた新たなアプリやシステムの導入などの検討 |
| | 3 各種資機材の更新に合わせた仕様変更等 |
| | ・ 環境に配慮した装備資機材の検討や仕様変更による利便性の向上や負担軽減の検討 |



課題と検討の方向性について(案)

課題2 活動力を地域で発揮していくことで、地域住民の負託に応え続けることが重要である。

検討事項① 消防力維持のため、計画的な人材育成方策について検討

| | |
|-------------|--|
| 検討の方向性 | 1 経験が浅い消防団員への教育訓練体制や目標、内容 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的訓練目標や到達状況の確認の実施の検討 ・ 団員の活動技術や実績に応じた識別方策の検討 |
| | 2 経験豊富な中核となる団員による訓練指導体制等 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 長年の消防団活動で培った知識や技術を実戦的訓練指導への反映の検討 ・ 訓練指導者の研修や体制などの検討 |
| | 3 操法訓練と実働訓練の実施の目安 |
| 4 訓練効果の確認方策 | |

検討事項② 地域に尽力している消防団を地域住民により知ってもらう方策について検討

| | |
|---|---|
| 検討の方向性 | 1 積極的な災害活動の定着化 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 消防団員が災害活動に従事する意識向上のための方策について検討 |
| | 2 大田区等と連携した普及方法 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 大田区や関係団体と連携した、消防団活動の新たな認知度向上方策の検討 |
| | 3 地域から、より理解と信頼を得る消防団づくり |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域行事や消防団行事などを通じた、地域住民の消防団活動に対する理解促進方策の検討 ・ 消防団員が行う総合防災教育等を通じた、児童・生徒の消防団活動に対する理解促進方策の検討 | |